

# たまねぎレポート【第428号】



令和5年6月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

5月の日本の天候は、気温は北日本で高くなった。降水量は北日本の太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なかった一方、西日本の日本海側でかなり多かった。日照時間は北・東日本の日本海側と北・東・西日本の太平洋側で多かった。月末の29日には、九州～東海地方が平年より1旬早い梅雨入りとなった。北海道では、高気圧に覆われて晴れた日が多く、歴代1位の少雨となった。6月2～3日には、台風2号の影響による線状降水帯の大雨に見舞われ、西日本～関東地方で大水害が発生した。関東甲信越の梅雨入りは6月8日で平年並みであった。

気象庁の7～9月の3か月予報では、平均気温は、東日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は、東・西日本で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

7月、北日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

## 野菜の市場概況

建値市場の5月の野菜の販売量は、220,085トン前年比94%(前月比110%)平均単価はkg¥247前年比97%(前月比100%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては販売量は前年比減、単価は前年比安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比107%、平均単価はkg¥243前年比85%。東京市場の販売量は前年比104%、平均単価はkg¥259前年比95%。名古屋市場の販売量は前年比103%、平均単価はkg¥240前年比93%。大阪本場の販売量は前年比102%、平均単価はkg¥248前年比96%。福岡市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg¥185前年比96%となっている。

建値市場の5月の玉葱の販売量は25,983トンで前年比117%、(前月比92%)、平均単価はkg¥96前年比43%(前月比74%)となっている。北海物の残量が多い上に府県産の早生が豊作で品余り傾向が続いた。市場別では、札幌市場の販売量は2,849トン前年比119%、平均単価はkg¥108前年比44%。東京市場の販売量は12,151トン前年比123%、平均単価はkg¥100前年比39%。名古屋市場の販売量は5,063トン前年比113%、平均単価

はkg ¥ 89前年比40%。大阪本場の販売量は3,773トン前年比115%、平均単価はkg ¥ 87前年比36%。福岡市場の販売量は2,147トン前年比104%、平均単価はkg ¥ 89前年比38%となっている。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷量は、124,090トン前年比104%(前月比112%)。平均単価はkg ¥ 259前年比95%(前月比94%)。旬別では上旬がkg ¥ 276で前年比102%、中旬が ¥ 255で前年比94%、下旬が ¥ 247で前年比90%、となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、タマネギが前年比123%、ホウレンソウが118%、ピーマンが117%、レタスが109%、ダイコンが108%など10品目。入荷が前年比減の品目は、サトイモの前年比76%を始め、生シイタケが89%、トマトが95%、キャベツが96%など5品目。価格が前年比高の品目は、サトイモがkg ¥ 426で前年比132%、ニンジンkg ¥ 162で120%、ナマシイタケkg ¥ 1,043で115%、ハクサイがkg ¥ 85で115%など等6品目。前年比安の品目は、タマネギがkg ¥ 100で前年比39%、ダイコンがkg ¥ 91で79%、キャベツがkg ¥ 84で85%、キュウリがkg ¥ 237で89%など9品目となっている。

### 東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	124,090	103.7	112.1	259	95.0	94.2
た ま ね ぎ	12,151	122.5	96.3	100	39.1	90.9
キ ャ ベ ツ	17,079	95.7	97.9	84	85.4	79.3
は く さ い	6,316	106.6	119.0	85	114.9	98.8
だ い こ ん	8,233	107.9	97.4	91	78.7	91.9
に ん じ ん	7,898	102.1	115.3	162	119.8	93.6
ば れ い し ょ	9,631	108.0	137.7	158	96.7	77.5

レタス	7,182	108.8	114.2	157	93.7	83.1
ねぎ	3,606	98.6	104.8	417	102.2	133.2
トマト	7,840	95.3	134.5	328	104.0	80.4
きゅうり	8,019	105.6	125.9	237	89.4	76.0
かぼちゃ	1,122	59.9	125.6	511	198.7	88.9
ながいも	644	69.3	101.7	429	155.2	105.2
れんこん	440	256.1	75.1	537	52.5	123.2
にんにく	257	91.0	117.4	814	85.6	92.2

## 玉葱の概況

### 需要(市場)の動き

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷販売量は12,151トン前年比123%(前月比96%)。主力は佐賀物で入荷量は6,715トン前年比130%、占有率は55%で前年比3ポイントアップ。北海物は2,732トン前年比230%、占有率23%前年比11ポイントアップ。兵庫物は1,307トン前年比104%、占有率11%前年比1ポイントダウン。千葉物は322トン前年比65%、占有率3%前年比2%ダウン。香川物は248トン前年比126%、占有率2%で前年と同じ。総平均単価はkg¥100前年比39%(前月比91%)。産地別平均単価は、佐賀物はkg¥91前年比34%、北海物はkg¥130前年比62%。兵庫物はkg¥94前年比33%。千葉物はkg¥84で前年比35%。香川物はkg¥90前年比33%となっている。

6月に入って、佐賀物中心の入荷となったが、今年の佐賀物は天候不順の影響もあり、選果が不十分で人気離散で引き合いが鈍く、売れ残りの発生率が高い。佐賀物に比べ品質の安定度が高い兵庫物は、収穫遅れで入荷量が少ない。関東産の栃木物は、天候の影響でピークは後ずれし、入荷は前年を下回っ

ている。現在、佐賀物は JA 白石・唐津が主力だがいずれも、品質が今一つでクレームの発生率が高い。兵庫物は大粒傾向で良好とは言えないまでも、佐賀物に、比べると品位の安定度が高いものの、産地からの価格要請が強く高値で売り辛い。栃木物の品質は佐賀物と大差ないが、割安で荷動きが良い。

6月1日～20日の玉葱の販売量は6,993トン前年比115%。平均単価はkg¥93前年比41%となっている。産地別の販売量と単価は、佐賀物が3,321トン前年比134%、平均単価はkg¥91前年比40%。兵庫物は1,290トン前年比97%、平均単価はkg¥101前年比45%。北海物は656トン前年比314%、平均単価はkg¥118前年比62%。香川物は598トン前年比41%、平均単価はkg¥92前年比41%。栃木物は288トン前年比76%、平均単価はkg¥71前年比40%となっている。北海物は事前契約分の割高品があり、値下り率は低くなっている。

### 名古屋市場

名古屋中央卸売市場の5月の玉葱販売量は5,063トン前年比113%（前月比90%）で前年比増、前月比減となっている。主力は新物で地場の愛知物が2,452トン前年比84%、占有率は48%で前年比17%ダウン。北海物は2,159トン前年比237%、占有率は43%で前年比23ポイントアップ。兵庫物は253トン前年比75%、占有率5%で前年比3ポイントダウン。総平均単価はkg¥89前年比40%（前月比86%）。産地別の平均単価は、愛知物はkg¥83前年比33%。北海物はkg¥88前年比91%。兵庫物はkg¥93前年比35%となっている。

6月に入って、地場産地の愛知物主力の販売となり、品種は順次中生に移行し、Lサイズ中心の玉流れとなり売り易くなったが、荷動きは鈍く上値が少なく下値が多い状態が続いた。愛知物に比べ品質の安定度が高い兵庫物は、産

地が強気で L・M ¥2, 200を要求され、割高のため仲卸の多くは様子見的な動きで、日々在庫を抱えながらの苦しい販売が続いた。昨今では、愛知物に腐敗の混入が目立ちクレーム多発で、仲卸から敬遠され売り捌くのが厳しくなっている。他方、兵庫物にも多少のクレームがあるものの、愛知物に比べると品質が安定しており、高値ながら注文が増加傾向となっている。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の5月の玉葱の販売量は3, 773トン前年比115% (前月比95%) で前年比増、前月比減となっている。特に、北海物が前年比525%で前月に続き激増している。産地別の販売量は、兵庫物が1, 879トン前年比96%、占有率50%で前年比9ポイントダウン。佐賀物は962トン前年比109%、占有率は25%で前年比2ポイントダウン。北海物は612トン前年比525%、占有率16%前年比12ポイントアップ。大阪物は203トン前年比152%、占有率5%前年比1ポイントダウン。総平均単価はkg ¥87前年比35% (前月比86%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg ¥83で前年比50%、佐賀物はkg ¥90前年比36%。北海物はkg ¥100前年比66%。大阪物はkg ¥67前年比27%。となっている。

6月に入って、兵庫物中心の販売となったが、荷動きは今ひとつであった。兵庫物は他の産地より手入れが良いが、中晩生も大豊作で相変わらず大粒で、2Lが多く産地では2Lは加工向けにストックし市場出荷を抑制しているものの、2Lの動きは鈍い。L・Mはそれなりに捌けたが、相場は横這い状態であった。佐賀物は兵庫物に比べると2Lの比率が少なく、荷口は少ないが比較的ロットが大きく量販店向けが受け皿となった。大阪物は少量だが割安が受けて常連客が付いていた。昨今では、兵庫・佐賀とも田植期に入り、入荷は減少傾向で、量販店のなかには特売を仕掛ける店もあり、地方市場への転送需要も出始め

たことで、相場は強保合に転じている。

6月1日～20日の玉葱の販売量は2,390トン前年比122%、平均単価はkg¥92前年比44%。産地別の販売量と平均単価では、兵庫物は1,532トン前年比121%、平均単価はkg¥94前年比44%。佐賀物は562トン前年比135%、平均単価はkg¥92前年比44%。北海物は123トン前年比411%、平均単価はkg¥99前年比63%。大阪物は112トン前年比197%、平均単価はkg¥71前年比37%となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の5月の玉葱販売量は、2,147トン前年比104%(前月比83%)で、前年比増、前月比減となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,204トン前年比86%、占有率56%前年比12ポイントダウン。北海物は573トン前年比530%、占有率27%前年比22ポイントアップ。長崎物は203トン前年比91%、占有率10%前年比1ポイントダウン。福岡物は78トン前年比105%、占有率4%前年も4%。総平均単価はkg¥98前年比38%(前月比91%)で前年、前月比ともに大幅安となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥81前年比32%。北海物はkg¥103前年比88%。長崎物はkg¥81前年比33%。福岡物はkg¥94前年比39%となっている。

6月に入ってから、佐賀物オンリーの販売日が多く、球流れはL中心で5月に比べ小粒化し、売り易い球流れとなったが、荷動きは改善されず安値販売が続き、少ない2Lも受け皿が少なく売れ残る状態であった。更に契約の北海物の売れ残りもあり、販売環境は厳しく頭の痛い日が続いた。しかし、前週当たりから、産地は田植期に入り入荷減で品不足状態となり、仲卸の注文にも応じきれず頭を抱えている。唯、佐賀物はJA・商系物とも品質不良でクレームが相次ぎ、積極的な荷引きが出来ず困っている。

6月1日～20日の玉葱の販売量は1,517トン前年比124%、平均単価はkg¥84前年比44%。販売量は前年比24%増で他市場に比べ増加率は低いが、平均単価は前年比44%で他市場に比べ値下がり率はやや低い。

#### 6月24日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

##### 【札幌市場】 販売量88トン 強保合

佐賀 20kgDB2L ¥1,800～1,600、L ¥2,200～1,900、M ¥2,200～1,800。

栃木 20kgNT2L ¥1,500～1,400、L ¥1,700～1,600、M ¥1,700～1,600。

##### 【太田市場】 販売量242トン 強い、強保合、保合、弱保合、弱い

佐賀 20kgDB2L ¥1,800～1,700、L ¥2,200～2,000、M ¥2,000～1,800。

兵庫 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L ¥2,500～2,300、M ¥2,200～2,000。

栃木 20kgNT2L ¥1,400～1,200、L ¥1,800～1,700、M ¥1,700～1,600。

##### 【名古屋北部市場】 販売量67トン 強い

愛知 20kgDB2L ¥1,500～1,300、L ¥1,800～1,500、M ¥1,600～1,400。

兵庫 20kgDB2L ¥1,800～1,700、L ¥2,500～2,400、M ¥2,300～2,200。

##### 【大阪本場】 販売量110トン 保合

兵庫 10kgDB2L ¥900～800、L ¥1,200～1,100、M ¥1,100～1,000。

兵庫 20kgDB2L ¥1,700～1,600、L ¥2,400～2,300、M ¥2,200～2,000。

愛媛 10kgDB2L ¥600～ L ¥800～700。

大阪 20kgDB2L ¥1,300～1,200、L ¥1,600～1,500、M ¥1,400～1,300。

##### 【福岡市場】 販売量62トン 強い

佐賀 10kgDB2L ¥1,000～900、L ¥1,400～1,000、M ¥1,400～1,000。

佐賀 20kgDB2L ¥2,000～1,600、L ¥2,300～2,000、M ¥2,300～2,000。

## 供給(産地)の動き

府県産の早生は、予想以上の大豊作で出荷は後ずれ傾向となったが、中晩生は平年作か豊作に近づくのが精々と予想されていた。産地毎にはかなりの差はあるものの、適温・適雨に恵まれたためか？ 玉肥大が予想外に進み主産地の兵庫・佐賀では経験のない豊作型となった。半面、玉締りに難があり、品質不良が目立ち始めている。その他の新興産地も豊作型で、この先潤沢な出回りが予想されている。一方品質的には難があり成り行きが注目されている。

**佐賀**、収穫は前週に終了したが、天候不良で平年に比べ4～5日の遅れとなったが、その反面球肥大が進んだ。中晩生の平均反収は6トンを上回りそうだ。現在の産地在庫は、平年をかなり上回るものの吊り玉は少なく、ポリコン詰のハウス貯蔵が多い。佐賀特有の除湿乾燥貯蔵は JA・商系とも前年を上回ると予想されている。JAでは鉄コン詰めもあり、在庫は定かでないが、除湿乾燥物の出荷は前年比5～6%増の3,600トンの計画と聞く。今年の佐賀物は天候不順の影響で、品質に難があり此の先もロス率の上昇が懸念されている。

**兵庫**、主産地の淡路島は中晩生の主力産地で、7月以降のプライスリーダーでもある。5月には中晩生の作柄は、平年作か平年作をやや上回る程度と予想されていたが、収穫前の6月に入り、雨天曇天続きで気温・地温が低く、球肥大が進み、記録的な大豊作となった平成23年に類似した天候で、予想外の大豊作型に好転したと言われる様になった。今年の中晩生の平均反収は過去最高の8トン前後と予想されている。病害で葉枯れが見受けられた圃場でも、球肥大が進み、裂球が多発する状態の肥大で、玉葱の旺盛な生命力を感じさせられている。いずれの圃場も乾燥不良で、肥大期が延長されたことで泥んこの玉葱が多い。収穫は前週で殆ど終了したが、2Lが多くLが少ない。今年は収穫遅れで葉枯れが進み、吊り球に好適な玉葱は少なく、地域ブランドの「淡路島

玉葱」の品質が心配されている。現在の産地在庫は豊富で、市場出荷を抑制した青切りの加工向け2Lの冷蔵庫貯蔵を始め、ポリコン詰めでハウス利用の温風乾燥と短期貯蔵も多い。

### 北海道産地

いずれの地域も定植後の活着、初期生育は地域により若干の早い遅いはあるが総じては順調である。道の出先機関の6月15日現在の調査に依る生育状況は、石狩地区では草丈37.4 cmで平年並み、葉数6.2枚で平年並み、葉鞘径11.1 mmでやや太く、生育は平年比3日早い。空知地区では、草丈61.8 cmで平年比10.2 cm長い、葉数7.4枚で平年並み、葉鞘径14.5 mmで平年並み、生育は平年比2日早い。上川地区では、草丈36.1 cmで平年比89%、葉数5.6枚で平年比90%、葉鞘径9.8 mmで平年比90%、移植作業の遅れで生育はやや遅れている。オホーツク地区は、草丈48cmで平年比110%、葉数6.4枚で前年比107%、葉鞘径12.1 mmで平年比105%、生育は2日早いと報告されている。

### 輸入の動き

5月の輸入量は速報値で19,199トン前年比79%。国別では、主力の中国が18,070トン前年比92%。ニュージーランドが725トン前年比20%。オーストラリアが365トン前年比60%。オランダが26トン前年比9%。中国以外の国はいずれも前年比大幅減となっている。

中国、5月の主力産地は雲南省から順次、河南省、江蘇省、広東省に移行し、作付増と順調な生育で産地価格は、大幅に値下がりすると予想されていたが、増反・増収は予想を下回り、出回り量の減少で値下り幅は縮小している。現在の価格は、剥き玉20kg・C&F・\$8.00の水準である。

その他の国からの輸入は、コスト高と日本マーケットの安値で大幅な減少が

続いている。

### 7月の市況見通し

6月市況はいずれの産地の中晩生も予想以上の豊作で、前半の市況は保合で推移したが、後半には主産地産の価格要請が強まったことや、産地が田植の繁忙期を迎え、入荷が減少傾向となり強保合に転じている。通常、7月になれば主力産地の兵庫(淡路島)では、冷蔵物の入庫期を迎え、市場出荷が減少傾向となり、市況は堅調に向かうが、今年は冷蔵貯蔵の適格品が少なく、止む無く即売に転向する物が多く、品物次第で、市場相場は大きく変わる。従って、月前半は産地関係者も市場関係者も様子見の動きとなり、保合から強保合の展開となりそうである。月後半は北海物の作柄に左右される。(笹野敏和記)